

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：14201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730430

研究課題名(和文)医療機関の予算を中軸とした管理会計システムと組織間連携に関する研究

研究課題名(英文) Management Control System in Healthcare Organizations Utilizing Budgets as a communication tool, From a Hospital to Networks

研究代表者

衣笠 陽子 (Kinugasa, Yoko)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：40539160

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：まず組織間連携のベースとなる、医療機関の単体運営の核である医療管理会計のシステムが機能する要件について、医療機関の特徴である組織構成員のプロフェッショナリズムと、チーム活動に起因する相互依存性に着目して研究を行った。その結果、アカウンタビリティの共有と管理可能性原則の再構築という、従来の責任会計の想定とは異なる理論的枠組みが明らかになった。

次にこの概念レベルのシステムを、具体的な実行システムとして構築するにあたり、意志疎通や意識の共有のツールとして目標管理と方針管理に着目し、予算管理システムとの結合をはかった。

研究成果の概要(英文)：First, we have executed the research to clarify the primary factors which activate the management control system in healthcare organizations, focusing the particular features of professionalism and interdependency of teamwork activities of professionals. As a result, we have constructed the new framework for healthcare organizations, based on the concepts of shared accountability and reconsidered controllability principle.

Second, we have shown the path for executing the action plan of management control system by combining the Management by Objectives and Hoshin Kanri systems, with budgetary control system as a communication and information sharing tool.

研究分野：管理会計

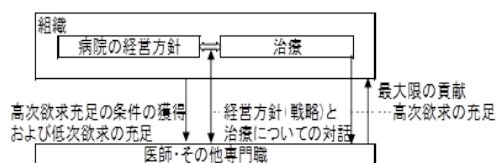
キーワード：医療管理会計 予算管理システム アカウンタビリティ プロフェッショナル 会計コミュニケーション 納得性 管理可能性原則 コミットメント



また体系的な医療機関の管理会計システムの枠組みを提示し、ケース・スタディ先の調査担当者との意識を共有する必要が生じ、テキスト的な著作をまとめ、実践的枠組みの提示を行う必要性が生じた。よって医療機関における管理会計の「しくみ」について、その機能と推測できる効果、また医療機関における注意すべき独自の要因などについてまとめ著書を執筆した（当該書籍は日本原価計算研究学会 2014 年度学会賞受賞・文献賞を受賞）。その際に制度的要因を踏まえた上で医療会計の特質についてまとめ、医療機関における利益概念について分析を行った。またプロフェッショナルの存在とその自律性について注目し、アカウンタビリティの従来型の変容について指摘した上で効果的な予算管理システムの在り方について明らかにした。以下は当該書籍の目次である。

- 1章 序論 問題の提起
- 2章 医療機関における管理会計の意義と役割
- 3章 医療保険・診療報酬制度と医療経営
- 4章 診療報酬の支払制度の変化と影響
- 4章補論 日本と大きく異なる米国の医療供給システム
- 5章 医療機関の利益概念と医療経営
- 6章 予算管理システムを中軸とした総合管理
- 7章 病院経営における管理会計の機能
- 8章 成果と展望

また以下は現場に裁量性の高いプロフェッショナルが存在する組織である医療機関において、予算管理システムが機能するために必要となる内部アカウンタビリティの原理となる概念図である。



(衣笠,2013;199)

#### (4)責任会計システムとアカウンタビリティの在り方の再検討

医師や看護師などの専門職が組織内で主力となり高い裁量性をもって組織運営を行うというような、プロフェッショナルの自律性と主体性を阻害することなく、また裁量性を侵すことなく、管理会計システムが機能するためには責任会計システムとアカウンタビリティの在り方を再検討する必要があることを指摘し、組織内における内部アカウンタビリティの新たな可能性について明らかにした。このアカウンタビリティの再認識については、Roberts(1991)に依拠してモデル展開を行った（Roberts, J.(1991) “The possibilities of accountability”, *Accounting, Organizations & Society*, Vol.16, No.4, pp.355-368.）これはチー

ム活動などの相互依存性が高い組織における共有化されたアカウンタビリティの存在と、予算管理システムのもつコミュニケーション機能の因果関係の提示である。

#### (5)国際学会での報告 (APIRA, NZMA)

営利企業の管理会計システムとは異なる、医療機関の特質を踏まえた新たな管理会計システムである医療管理会計の機能原理を支える概念として、機能としての内部アカウンタビリティと予算管理システムのコミットメント形成機能について研究をまとめ国際学会において報告を行った（Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting, および New Zealand Management Accounting Conference）。

さらに当該研究の根底原理となったRoberts(1991)のJohn Roberts教授(University of Sydney)を訪ね、当該研究について意見交換を行い研究交流をはかった。

#### (6)管理可能性原則と責任会計システムの再検討とコミュニケーションシステムとしての予算管理システム、その実行システムとしての目標管理と方針管理の統合

医療機関の特質を踏まえた管理会計システムが機能する要件として従来の管理可能性原則と責任会計システムの前掲の再検討が必要であることが明らかになった。この概念レベルのシステムを具体的な実行システムとして構築するにあたり、目標管理と方針管理に着目し、予算管理システムとの結合をはかった。この実行システムは、単なる医療機関における意志疎通や意識の共有のツールとして用いるのではなく、予算管理システムと結合させることで、「壁に貼った模造紙」とは異なる総合管理の一端となる。研究の結果、当該実行システムは 戦略との結合、自己実現と個人の能力向上に起因する動機づけ、 コンセンサス・ビルディング、以上の3点の機能を持つことが明らかになった。

#### (7)課題と今後の展望

組織間連携のベースとなる、医療機関の単体運営の核となるべき医療管理会計のシステムが機能する要件について、医療機関の特徴である組織構成員のプロフェッショナルリズムとチーム活動に起因する相互依存性に着目して研究を行ってきた。その結果、アカウンタビリティの共有と従来の責任会計の想定とは異なる理論的枠組みが明らかになった。さらにこの管理可能性原則の再検討を踏まえた組織間連携についても、企業における組織間連携とは異なることが予想される。さらに医療機関の連携においては地域連携などの法人や組織が同一グループやチェーンではない、異なる組織同士の連携が行われているケースがあり、その場合の組織間連携の機能要件について明らかにする必要がある。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

衣笠陽子「目標管理と方針管理の同質化と相互補完性」『原価計算研究』第 39 巻第 2 号、2015 年掲載予定(査読有)。

衣笠陽子「目標管理と方針管理の同質化と相互補完性 医療機関におけるアカウンタビリティの共有化と総合管理」(上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の礎石』中央経済社、2015 年 3 月)、107-135 頁(査読無)。

衣笠陽子「医療管理会計を機能させる要件について考える プロフェッショナルリズム、相互依存性と組織内アカウンタビリティ」『産業経理』第 73 巻第 3 号、2013 年 11 月、176-191 頁(査読無・依頼)。

衣笠陽子「病院経営における管理会計の機能 病院予算を中軸とした総合管理」『管理会計学』(日本管理会計学会学会誌)第 20 巻第 2 号、2012 年 5 月、3-18 頁(査読有)(日本管理会計学会 2012 年度学会賞受賞・論文奨励賞)。

衣笠陽子「医療経営と医療管理会計 医療の質を高める医療管理会計の構築を目指して」(京都大学経済学博士論文)2011 年 3 月(査読有)。

〔学会発表〕(計 4 件)

衣笠陽子「目標管理と方針管理の同質化と相互補完性 医療機関におけるアカウンタビリティの共有化と総合管理」日本原価計算研究学会全国大会(於神戸大学・兵庫県神戸市) 2014 年 9 月 21 日。

Kinugasa, Yoko “Accountability as a function –the effect of budgeting bearing commitment among professionals-”, New Zealand Management Accounting Conference (hosted by Otago University, Dunedin, New Zealand), 5th November, 2013.

Kinugasa, Yoko “Accountability as a function –the effect of budgeting bearing commitment among professionals-”, Asia Pacific Interdisciplinary Research in Accounting (hosted by Kobe University, Kobe, Japan), 25<sup>th</sup> July, 2013.

衣笠陽子「組織構成員の相互依存性とアカウンタビリティの変容について」日本管理会計学会全国大会(於関西大学・大阪府吹田市) 2011 年 10 月 22 日

〔図書〕(計 1 件)

衣笠陽子『医療管理会計 医療の質を高める管理会計の構築を目指して』中央経済社、2013 年 6 月、325 頁(日本原価計算研究学会 2014 年度学会賞受賞・文献賞)。

## 6. 研究組織

研究代表者

衣笠 陽子 (KINUGASA, Yoko)

滋賀大学・経済学部・准教授

研究者番号：40539160